

木造の建物の耐力度調査票(耐震診断未実施用)

IV 学校種別 V 整理番号

(表面)

I 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	III 結果点数			
					調査者	職名	一級建築士登録番号	氏名	① 構造耐力	耐力度 ①×②×③
					予備調査者	会社名	一級建築士登録番号	氏名	② 健全度	
II 調査建物		建物区分	棟番号	階数	面積	建物の経過年数		被災歴	補修歴	

A	区分	第一列	評点	第二列	評点	第三列	評点	第四列	評点			
	構造	① 基礎構造	べた基礎	5	布基礎	4	ブロック基礎	2	その他の基礎	0		
		② 土台	柱と同寸法以上の土台があるもの	5	柱と同寸法未満の土台があるもの	4	古材を使用した土台があるもの	3	土台がないもの	0		
		③ 柱	2階建ての場合における1階の柱 断面積が15cm角以上のもの 又は13.5cm角のもの2本	5	断面積が12cm角のもの2本	3	断面積が13.5cm角のもの	2	断面積が13.5cm角未満のもの	0		
	平屋の場合における柱 断面積が13.5cm角以上のもの 又は12cm角のもの2本	断面積が12cm角のもの又は 10.5cm角のもの2本	断面積が11.5cm角のもの		断面積が11.5cm角未満のもの							
	壁	張間方向	壁長 6<壁長さ(cm)/床面積(m ²)	7	4<壁長さ(cm)/床面積(m ²)≤6	5	2<壁長さ(cm)/床面積(m ²)≤4	3	壁長さ(cm)/床面積(m ²)≤2	0		
			間隔 固定間仕切間の距離が9m以下のもの	5	固定間仕切間の距離が9mをこえ18m以下のもの	3	固定間仕切間の距離が18mをこえ27m以下のもの	1	固定間仕切間の距離が27mをこえるもの	0		
		桁行方向	壁長 6<壁長さ(cm)/床面積(m ²)	5	4<壁長さ(cm)/床面積(m ²)≤6	3	2<壁長さ(cm)/床面積(m ²)≤4	2	壁長さ(cm)/床面積(m ²)≤2	0		
	耐力	筋かい及び控柱	張間方向	平屋	柱と同寸法の筋かいもしくは柱二つ割のたすき筋かいが取り付けられているもの又は組んだ控柱があるもの	5	柱二つ割の片筋かいがあるもの又は組んでいない控柱があるもの	3	左記の構造以下の筋かいが取り付けられているもの	1	筋かいも控柱もないもの	0
			2階以上	柱と同寸法のたすき筋かいが取り付けられているもの又はトラスに組んだ控柱があるもの	5	柱と同寸法の筋かいもしくは柱二つ割のたすき筋かいが取り付けられているもの又は組んでいない控柱があるもの	3	左記の構造以下の筋かいが取り付けられているもの	1	筋かいも控柱もないもの	0	
桁行方向		平屋	柱と同寸法の筋かい又は柱二つ割のたすき筋かいが取り付けられているもの	5	柱二つ割の片筋かいが取り付けられているもの	3	左記の構造以下の筋かいが取り付けられているもの	1	筋かいも控柱もないもの	0		
	2階以上	柱と同寸法のたすき筋かいが取り付けられているもの	5	柱と同寸法の筋かい又は柱二つ割のたすき筋かいが取り付けられているもの	3	左記の構造以下の筋かいが取り付けられているもの	1	筋かいも控柱もないもの	0			
⑥ 屋根ふき材料	トタンぶき又は土居ぶきの類	3	スレートぶきの類	2	瓦又はセメント瓦の類	1	かやぶきの類	0				
⑦ 点数	小計											
	合計	(上記の計)+50=().....①										

B	① 経年変化 T	経過年数 t	判別式(建築時からの経過年数)	経過年数 t ₂	判別式(長寿命化改良後の経過年数)	評点	評点合計					
		年	T=(40-t)/40 =	年	T=(30-t ₂)/40 =	⑦	①(⑦×20) ②=(①+②)+③+④+⑤+⑥					
	② 木材の腐朽度 D	外壁土台・外壁柱	部位	外壁土台		外壁柱		判別式	評点			
			腐朽度の判定	腐朽長	外壁長	腐朽度d ₁	腐朽本数	外壁柱本数	腐朽度d ₂	max(d ₁ ,d ₂)≤0.3 1.0	⑧	②(⑧×20)
										0.3<max(d ₁ ,d ₂)≤0.6 直線補間		
								0.6<max(d ₁ ,d ₂) 0.5				
		床梁・小屋梁	部位	2階床梁		小屋梁		判別式	評点			
			腐朽度の判定	腐朽本数	床梁本数	腐朽度d ₃	腐朽本数	小屋梁本数	腐朽度d ₄	max(d ₃ ,d ₄)≤0.3 1.0	⑨	③(⑨×20)
										0.3<max(d ₃ ,d ₄)≤0.6 直線補間		
								0.6<max(d ₃ ,d ₄) 0.5				
③ 基礎の状態 F	基礎の劣化			基礎の傾斜			判別式	評点				
	割れ有の基礎長	外周基礎全長	健全度d _f	相対沈下量	測定基礎長	沈下率φ _f	max(d _f ,φ _f ×100)≤0.2 1.0	⑩	④(⑩×10)			
							0.2<max(d _f ,φ _f ×100)≤0.5 直線補間					
						0.5<max(d _f ,φ _f ×100) 0.5						
④ 部材の傾斜、たわみ R	柱の傾斜	方向	張間方向		桁行方向		判別式	評点				
		傾斜率の測定	傾斜長	測定柱高	傾斜率r ₁	傾斜長	測定柱高	傾斜率r ₂	max(r ₁ ,r ₂)≤0.002 1.0	⑪	⑤(⑪×15)	
									0.002<max(r ₁ ,r ₂)≤0.005 直線補間			
							0.005<max(r ₁ ,r ₂) 0.5					
	床梁のたわみ	部位	1階		2階		判別式	評点				
		相対たわみの算定	たわみ量	最大スパン	相対たわみθ ₁	たわみ量	最大スパン	相対たわみθ ₂	max(θ ₁ ,θ ₂)≤0.002 1.0	⑫	⑥(⑫×15)	
									0.002<max(θ ₁ ,θ ₂)≤0.005 直線補間			
							0.005<max(θ ₁ ,θ ₂) 0.5					
⑤ 床鳴り、振動障害 A	床鳴りの有無 α			振動障害の有無 β			合計	判別式	評点			
	無し:0	軽微な床鳴り:1	多数の床鳴り:2	無し:0	時々振動を感知:1	常に振動を感知:2	α+β	α+β≤1 1.0	⑬			
								α+β=2 0.9				
							3≤α+β 0.8					
⑥ 火災の被災経験 S	無被害:0	煙害程度:0	非構造材被害小:1	非構造材被害大:2	構造材被害有:3	被害部を新材で補修:0	判別式	評点				
							S≤1 1.0	⑭				
							S=2 0.95					
						S=3 0.9						
⑦ 雨漏り痕の有無 U	雨漏り痕無:0	一部有(乾燥):0	多数有(乾燥):1	一部有(湿潤):2	多数有(湿潤):3	判別式	評点					
							U≤1 1.0	⑮				
							U=2 0.95					
						U=3 0.9						

C	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 敷地条件	④ 積雪寒冷地域	⑤ 海岸からの距離	評価	評点
	四種地域 1.0	一種地盤 1.0	平坦地 1.0	その他地域 1.0	海岸から8kmを超える 1.0	①+②+③+④+⑤ = 5 5 =	①
	三種地域 0.9	二種地盤 0.9	傾斜地崖地(3m未満) 0.9	二級積雪寒冷地域 0.9	海岸から8km以内 0.9		
	二種地域 0.85	三種地盤 0.8	崖地(3m以上) 0.8	一級積雪寒冷地域 0.8	海岸から5km以内 0.8		
一種地域 0.8							

(裏面)

学校名

調査者の意見

1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

